

令和5年度 政策評価書（事前の事業評価）要旨

担当部局等名：防衛装備庁技術戦略部技術計画官

評価実施時期：令和5年8月

| 事業名 | 戦闘支援型多目的U S Vの研究 | 政策体系上の位置付け |
|-------------|---|------------|
| | | 防衛技術基盤の強化 |
| 事業の概要等 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 事業の概要 警戒監視や対艦ミサイル発射等の機能を選択的に搭載し、有人艦艇を支援するステルス性を有した無人水上航走体（U S V（※））を研究する。 （※） U S V（Unmanned Surface Vehicle） ○ 総事業費（予定） 約245億円（研究試作総経費） ○ 実施期間 令和6年度から令和9年度まで研究試作を実施する。また、本事業成果と合わせて、令和8年度から令和12年度まで所内試験を実施し、その成果を検証する（所内試験のための試験研究費は別途計上する。）。 ○ 達成すべき目標 ア 潜水航行技術の確立 イ 自動運航関連技術の確立 ウ ミッションモジュール関連技術の確立 エ 複数U S V連携技術の確立 | |
| 政策評価の観点及び分析 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 必要性 警戒監視や対艦ミサイル発射等の機能を選択的に搭載し、有人艦艇を支援するステルス性を有したU S Vの基盤技術を獲得する必要がある。 ○ 効率性 無人水中航走体（U U V（※））等の類似事業の成果を活用して効率化を図る。また、岩国海洋環境試験評価サテライトを活用し、シミュレーションによる検討・検証の効率化を図る。 （※） U U V（Unmanned Underwater Vehicle） ○ 有効性 本技術を将来のU S Vに適用することで、警戒監視や対艦ミサイル発射等の機能を選択的に搭載し、有人艦艇を支援するステルス性を有したU S Vの実現に寄与できる。 ○ 費用及び効果 既存設備及びオープンアーキテクチャの活用並びにファミリー化・共通化により費用の抑制が図られ、他方、これまでにない有人艦艇の任務支援が可能であり効果は高いと見込まれる。 | |
| 総合的評価 | <p>本事業を実施することにより、上記達成すべき目標で述べた各種技術の確立が見込まれる。これらの成果については、研究試作及び所内試験により検証し、これらの検証結果が得られた場合には、技術競争の激しいこの分野での技術的優越の確保を図ることができ、その結果、我が国の技術力の強化に資することが見込まれる。これらは自衛隊のニーズに合致した高度な防衛装備品を創製するための極めて重要な成果であり、最終的に政策目標である我が国自身の防衛体制の強化につながるものであると評価できる。</p> <p>以上の点から、本事業は国家防衛戦略及び防衛力整備計画に記載された防衛技術基盤の強化に資する研究であり、また、政策体系上の位置付けも一致しており、いずれの政策評価の観点からも本研究に着手することは妥当であると判断する。</p> | |
| 有識者意見 | 本事業の必要性等について異論はない。 | |
| 政策等への反映の方 | 総合的評価を踏まえ、令和6年度概算要求を実施する。 | |

向性